

製造業における自動

化とは何か。例えば、金属加工業であれば加工対象物（ワーク）の搬送や移動に関わるロボット、ローダーといった装置導入による効果として語られることが多い。だが、アルムが考える自動化は人手が関わる全工程が対象になる。同社が新たに開発したソフトウェア「アルムコード1」は、マシニングセンター（MC）の加工プログラムを人工知能（AI）で自動作成する。アルムはこれまで、自動車業界向けの自動化装置を設計製造してきた。将来的な目標はソフトと培ってきたハイ

アルム

多品種少量生産を自動化

ド（装置）の技術との連携による、見積もりから検査までの「フルオートメーション化」だ。

危機感募る

「このままでは金属加工業が日本に残らな」と危機感を募らせ

る。熟練技能者の大量リ指示を自動化できるツールこそ必要になる。その発想が「アルムコード1」開発の端緒だった。

行政の関心高い

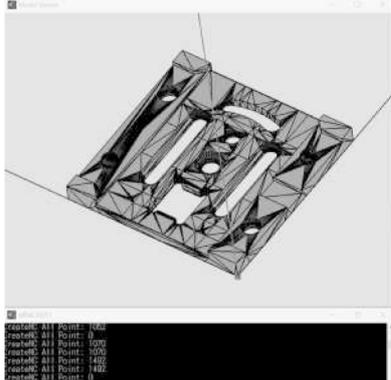
「アルムコード1」は9月の「ベータ版」製品提供に向けて500社限定で導入企業の募集を始めている。すでに大きな反響を呼び、全国から注目が集まる。導入企業とはソフトの効果検証や課題抽出で協力してもらう。「アジャイル型開発」（平山社長）により、素早く製品の完成

中日本発ドラゴン企業



社長 平山 京幸氏

ソフト「ベータ版」9月提供



度を高める。アルム自身が高める。アルム自身が機械加工を35年手がけるオーエスイーアップフェス202

（本荘昌宏）

加工プログラムをAIで自動作成する「アルムコード1」（秋田市）をグループに持った1では「あいち賞」め、ユーザを受賞した。特典で県1とも共通からは幅広い事業化支援を受けられるため、製造業の中心地に足が行政の関わりを築いたと言える。心も高い。これは構想の一部だ。今後は「アルムコード1」が対応する加工の種類をMCから旋削や研削にまで拡大、さらに周辺装置との連携を視野に入れ開発を進めている。

【企業プロフィール】
所在地＝金沢市戸水1の61
売上高＝5億7000万円（20年6月期）
設立＝06年（平18）8月